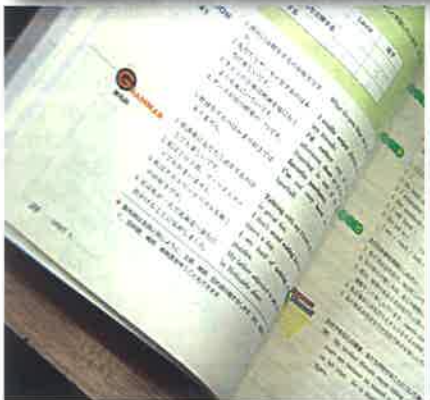




前橋育英 高校報

建学の精神 ～正直・純潔・無私・愛～

知と体と心を磨く



CONTENTS

2
3



【特別企画】トップ対談

将来ビジョン ～50周年に向けて～

理事長 校長

中村 義寛 / 小茂田 恵三

進路・SPP・群響音楽鑑賞会・スポーツ実績

4
5



保護者会だより

育英祭・スポーツレクリエーション

全高P連・マナーアップ

「進路指導部ヘインタビュー」

進路講演会

6

同窓会だより

同窓会長挨拶・親子二代同窓生
私の近況報告・お知らせ!

7

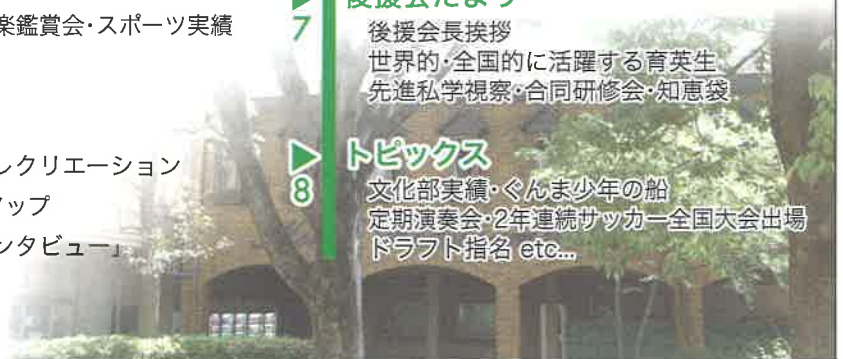
後援会だより

後援会長挨拶
世界的・全国的に活躍する育英生
先進私学視察・合同研修会・知恵袋

8

トピックス

文化部実績・ぐんま少年の船
定期演奏会・2年連続サッカー全国大会出場
ドラフト指名 etc...



【特別企画】トップ対談

将来ビジョン ~50周年に向けて~



「生徒一人ひとりの満足度を充足できる学校づくりを目指します」

理事長 中村 義寛



校長 小茂田 恵三

「育英は知と体と心を磨くことのできる学校です」



一育英高校はどうあるべきか。

中村 「私学の雄」としての地位を確立するために、県下一番を目指し、文武の実績を上げることが必至です。同時に、地域から認められ、さまざまな分野で評価される活力のある人間を育てることが大切です。

小茂田 スクールアイデンティティ学校らしさを目に見える形で表し、地域のニーズに応じて「育英ここにあり」という存在感をPRしなければなりません。

一50周年に向けて、ハード面のプランは。

小茂田 文化棟の中心として新たに図書館を設け、第1体育館を大幅にリニューアルするというプランがあります。これらを「文武両道」のシンボル

とするのが私の願いです。

一具体的なスケジュールは。

中村 まずは、体育館と食堂などを統合した「総合体育館」の設置で、50周年記念事業の一環として3年後の完成を目指しています。校舎のリニューアルは、中・長期プランとして今後10年以内に着手する予定です。

一ソフト面のプランとして、「育英ブランド力」を向上させる指針は。

小茂田 本校は教育目標に「自らの行動で、より良き社会を」を掲げています。社会貢献できる総合的な人間力のある人材育成を目指します。そのためには、文武の強化を図ることです。同時に、校歌にあるように、高校教育の原点である「真善美」も追い求めていきたいと思っています。

一文武の特化ポイントは。

中村 「文」としては生徒のニーズに合ったコース制の検討が必要でしょう。「武」としては実績に応じた援助を行うなど、生徒一人ひとりの満足度を充足できる学校づくりが目標です。

一最後にメッセージを。

小茂田 育英は、知と体と心の全てを磨くことのできる学校です。さらに、皆様から高い満足度が得られるよう努力をしていきます。その為には、職員一同が生徒と一丸となって実績向上に向け、たゆまぬ努力をしていく必要があります。

中村 学園本部も全面的にバックアップしていきたいと思っています。

一ありがとうございました。

聞き手 広報室室長 吉田幸一

進路ガイダンス



全校生徒を対象に、三年生は六月、二年生は十月、一年生は十一月に実施しています。大学・短大希望者に対しては、入試動向などを踏まえた講演を聞き、学部・学科

進路

(平成18年度実績)

大学合格者数

※延べ人数

400名

(内現役295名)

国公立大学合格者数

45名(内現役35名)

私立大学合格者数

355名

(内現役260名)

進学合宿

進学合宿の目的は一日十時間以上の学習に耐えられる生活習慣を身につけることです。今年度は七月三十日〜八月二日の三泊四日の日程で、菅平高原(長野県)で実施しました。参加者は一・二年生併せて八十一名。食事・入浴・睡眠時間以外は教材に向かっている学習時間というハードな中にも充実したものでした。初めての進学合宿を経験する生徒にとっては不安なことばかりだったと思

います。しかし、時がたつにつれてその不安は払拭され、達成感と自己の再発見・受験への自信などを得ることができたようです。この合宿を経験した生徒の今後の活躍が楽しみです。

系統別に分かれて大学の先生方による模擬授業を受講します。講師は県内の国公立大学をはじめ、首都圏を中心とした私立大学の先生方に依頼し、授業を受けている生徒はさながら大学生のようです。専門学校の現状については、説明会を実施した後、学科系統別の説明会を二カ所受講します。就職希望者に対しては、公務員と民間企業に分かれ、試験内容から面接の仕方など就職試験に関することを、受講します。

校内模擬試験

生徒の成績の推移(全国・県内・校内)・教科の得意・不得意分野の把握、教科指導の手引きとなるように模擬試験を実施しています。一・二年生は年三回の全国模試、年二回のスタデイサポート、小論文模試(二年二回・一年一回)。三年生は年十回の全国模試、年二回の小論文模試があります。大事なことは一回ごとの成績に一喜一憂せず受験後のフォローと、最後まであきらめずに自分を信じて目標を実現することです。

校内補習

授業内容の発展・基礎固めの意味を踏まえて補習を実施しています。平常時は放課後を使い、週三〜五日実施します。三年生は土曜補習もあります。長期休業中には特進夏期集中講義、夏期校内補習、冬期校内補習があり、数多くの生徒が受講しています。一年生は基礎固めを行います。二年生から科目を増やして、一層充実したものに なっていきます。三年生では、入試演習の講座が多くなり、実践に即した問題演習を行います。

Science Partnership Project (文部科学省主催)

研究報告

生と死 ~体内に潜む金属イオン その光と陰~ 20名参加

○静岡県立大学(8月21・22日)

生体内に微量存在する亜鉛が、脳機能に関わること、亜鉛摂取不足によって行動異常が起こること等を講義・実験を通じ学習した。

○自治医科大学(8月8~10日)

水銀、鉛、カドミウム等の毒性金属の人体への健康影響及び人体に対する作用機序、それらによる公害の歴史等を講義を通じ学習し、実験では



マウスの攻撃実験

①自分達の尿中の鉛、カドミウム濃度の測定。②ヒト培養細胞に対するHg、Pb、Cd

の金属毒性発現の有無、程度を目視的および科学的分析を行った。

米国派遣に参加して(群馬県教育委員会主催)



16年間で一番濃い夏

2年6組 古平 美紀(元総社中)
アメリカでの11日間の

研修は、とても濃く貴重なものだった。私は今でも、

思い出すたびに胸が熱くなるのを感じる。

まず、日本と全く違う文化と環境に驚かされた。建物や道路の大きさ、食事の量、室内と室外の温度差、ゴミの捨て方。それから、日本人の私たちに気さくに話しかけてくれる人々。アメリカの文化に触れることによって、アメリカの良い点・悪い点だけでなく、日本の良い点・悪い点にも気づくことができた。

NASAやプリンストン大学での講義は、色々なものを得ることができた。宇宙開発についての理解や科学の最先端技術に対する興味関心が高まったことはもちろん、講師の方々の研究への思いや、現在に至るまでの過程を聞くことができ、とても感銘を受けた。そして、夢に辿り着くまでには大変な努力が必要だということを改めて感じた。しかし、それと同時に将来に対する思いも強くなった。将来への期待と不安は紙一重だけれど、「夢を叶えたい」という強い気持ちを胸に、努力していこうと前向きに考えることができた。挫折しそうになったときは、この米国派遣のことを思い出し、それを励みに頑張っていきたい。

高2の夏はアツかった!!米国派遣は、私にとって一生モノである。

水泳部

群馬県高等学校総合体育大会(水泳)(優勝のみを記載)

■男子:学校対抗男子総合 優勝

- 競泳
 - ・50m自由形 西脇良浩(3-4)
 - ・100m自由形 阿久津克人(3-A)
 - ・200m自由形 池田 翔(1-B)
 - ・200m個人メドレー 斎藤拓之(1-B)
 - ・400m個人メドレー 斎藤拓之
 - ・400mメドレーリレー (池田→瀬谷慶成(1-B)→斎藤→西脇)
 - ・400mリレー(西脇→斎藤→池田→阿久津)
 - ・800mリレー(斎藤→阿久津→池田→西脇)
- 飛込
 - ・村上和基(3-B) 高飛込・3m飛板

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)

■男子:学校対抗飛込男子総合 優勝

- ・村上和基 高飛込優勝・3m飛板優勝
- 女子:学校対抗飛込女子総合 6位
- ・田中紀美子(2-3) 高飛込5位・3m飛板8位

関東高等学校選手権

競泳 ■男子

飛込

■男子

- ・村上和基 高飛込優勝・3m飛板優勝
- 女子
- ・田中紀美子 高飛込2位・3m飛板2位
- ・野本みき 高飛込8位

日本選手権競技大会飛込競技

■男子

・村上和基 高飛込優勝・3m飛板3位

国民体育大会(秋田わか杉国体)

- 競泳
 - ・池田 翔 少年男子B 400m自由形2位
- 飛込
 - 少年男子
 - ・村上和基 高飛込優勝・3m飛板優勝
 - 少年女子
 - ・田中紀美子 高飛込5位



群響鑑賞会

去る十一月七日群馬交響楽団による三年に一度の音楽教室が開催された。生徒たちは三時間の授業後、学年ごとに昼食を取った後、群馬県民会館へ移動した。一、二六二名の移動は大変だったが、先生方の各地点の交通指導や配慮によって予定通り実施することが出来た。

演奏曲は工藤俊幸指揮による「フンパーディンク」/歌劇「ヘンゼルとグレーテル」前奏曲・伊福部昭ノによる「ラフマニノフ」ピアノ協奏曲第2番であった。生徒たちは、流れるような旋律とピアノの迫力あるテクニク等を十分に堪能し、普段体験できない生の演奏を心おきなく満喫出来たものと思う。

SPORTS 2007 Summer~Autumn

陸上部

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)
・下田和弥(3-A) 河原田和紀(3-A)
棒高跳び出場

県高校駅伝
21年連続入賞

関東新人選抜大会

- ・鎗木陽介(1-B) 渡辺武宏(1-C)
- ・本 暁(1-C) 小林優仁(1-C)
- 4×100mリレー5位

フェンシング部

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)
・田村晋平(3-B)
フルーレ6位

国民体育大会(秋田わか杉国体)

・田村晋平
出場

ボクシング部

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)
・芹澤俊夫(3-1) バンタム級5位

国民体育大会(秋田わか杉国体)

- ・友松タ斗(3-2) フライ級5位
- ・芹澤俊夫 バンタム級5位



バスケットボール部

全国高等学校総合体育大会(インターハイ) 男子出場

国民体育大会(秋田わか杉国体)

- ・高橋竜也(3-A) 小林拓也(3-A)
- ・佐藤侑紀(3-B) 根岸健太(3-B)

全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会(ウィンターカップ) 県予選男子優勝(3年連続3回目)

テニス部

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)

- 男子:団体出場
- ・松田隼十(3-1) シングルス/ダブルス出場
- ・陶山広二(2-2) ダブルス出場

■女子:団体出場

- ・松田実季(3-1) シングルス/ダブルス出場
- ・茂木あずさ(2-1) ダブルス出場

県新人大会

■男子:団体2位

- ・陶山広二 シングルス2位
- ・丸藤成紀(2-3) 北浦 亮(2-3) ダブルス3位

■女子:団体優勝

- ・飯塚ひとみ(2-2) シングルス3位
- ・飯塚ひとみ/茂木あずさ ダブルス3位

国民体育大会(秋田わか杉国体)

■男子

・松田隼十 出場

■女子

・松田実季 出場

全日本選手権

■男子

・松田隼十 出場



柔道部

全国高等学校総合体育大会(インターハイ) 出場

自転車部

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)
・武藤龍生(2-A)

1kmタイムトライアル10位

県高校自転車選手権

・武藤龍生

3kmインディヴィデュアル・パーシュート優勝
スプリント優勝

ケイリン優勝

スクラッチ・レース優勝

1kmタイムトライアル2位

JOC(ジュニア・オリンピック・カップ)

・武藤龍生

1kmタイムトライアル10位

硬式野球部

全国高校野球選手権 群馬大会
ベスト4

秋季関東地区高校野球 群馬大会
ベスト4



模擬店 うどん400食完売



バザー会場:第二体育館



保護者の作品展示

第20回 育英祭に参加して



総務委員長 加藤 圭子

十月二十六・二十七日の二日間、育英祭が開催されました。保護者会では、お揃いのTシャツを着て二十七日に作品展示・バザー・模擬店「うどん」をさせて頂きました。作品展示では書や写真等の展示。バザーでは各家庭から、沢山の品物を出して頂きました。中には県外から送って頂いた荷物もあり感謝申し上げます。模擬店では台風接近で、足元が濡れて冷たいにもかかわらず楽しくできた事。そして、素直な子どもたちの会話もほほえみ、楽しい一日でした。皆様に御協力いただき、有難うございました。

バザーの報告とお礼

育英祭二日目、生徒会主催のバザー会場に保護者の皆様や多くの地域の方々においで頂き、ありがとうございます。当日は足元が悪い中、二時間足らずでしたが大変好評でした。売上金は二四三、一四五円でした。これも皆様方の御協力の賜物と、感謝申し上げます。売上金は、全て生徒会に繰り入れ、今後の生徒会活動に役立てていきたいと思っております。

スポーツレクリエーション交流会開催される



熱戦を繰り広げる選手たち

ととなりました。

保護者会会長 伊藤 昌司
保護者会では、九月九日、初めての試みと致しましてスポーツレクリエーション大会を開催しました。種目は「ソフトバレーボール」と「ユニカール」で、参加者が24名でした。保護者会は1・3の各学年ごとに分かれ、教職員との計4チームにてリーグ戦を行いました。成績は、ソフトバレーボールは3年生が、ユニカールは2年生がそれぞれ優勝致しました。ゲームも非常に楽しかったし、日頃の活動の中では分からなかった役員や先生方の素晴らしい側面を知ることができ、親睦を深める絶好の活動となりました。

「第57回全国高P連大会」に参加して

進路指導副委員長 荻野 眞弓



さいたまスーパーアリーナの前で

八月二十四、二十五日の日程にて「夢・希望・彩り豊に輝く明日を創造する力」をメインテーマに全国PTA

関係者一万六百人の参加となる全国高等学校PTA連合大会埼玉大会に佐藤教頭をはじめ6名にて参加をさせて頂きました。一日目さいたまスーパーアリーナでの全体会では池坊保子文部科学副大臣をはじめとする来賓祝辞の他「近所の力」というテーマでNHKエグゼクティブアナウンサー堀尾正明氏による記念講演が行われ、埼玉県内高校生による4団体の舞台競演がありました。中でも慶應義塾大学指導コーチによる応援歌メドレー演技は会場からアンコールがかかるほど応

マナーアップに参加して

生徒指導委員長 九條 純代

マナーとは「他者を気遣う」という気持ちの現れであり、相手を不快にさせないよう行動すべきものである。また、快適に生活してゆかため、快適に生活してゆかため、の一手段に過ぎず、人間が気持ちよく生活してゆくための知恵だと思えます。国や民族、文化、時代、宗教の様々な習慣によって形式は異なりますが、日本人には日本のマナーがあります。交通ルールもその一つ、左右確認せず横

断したり、並列運転をしている生徒が多い事に驚きました。何時事故が起きてもおかしくない状況です。私の息子は自転車衝突事故を起こし、相手の方は骨折し、不自由な日々を過ごされました。息子は前科一犯です。被害者となったり加害者となつて、お互い不快な生活を送つた事は、今でも忘れられません。ですから、マナーを守って礼儀正しい育英生と言われるように努力してもらいたいと思



前橋・長瀬線、朝日が丘町信号周辺

援団のひたむきさ、新鮮さ、真剣さが伝わる心を打つ演技で21世紀を支える力強い個性ある子供達がいる事を嬉しく感じました。二日目の分科会においては「進路指導とPTA」をテーマに他校PTAの取り組み事例協議に参加し、私たちPTAは学校の最も身近なサポーターとして子供達にとつて実社会とのパイプ役となり、地域とのコミュニケーションをとれるようにする為にも家庭教育の役割が大きいことを学ばせて頂きました。また参加者全員で、これからは育英生の最強のサポーターとなるようこの参加を役立てたいとも感じました。

保護者会から 進路の先生へインタビュー

推薦入試・AO入試で 現役合格するには!!



広報委員が進路指導室を訪ね、磯田先生と得地先生にQ & A形式でお話を伺ってまいりました。

Q1 平成20年度入試で 本校にどのような 指定校がきていますか？

主な大学として法政大学、東京理科大学、東京女子大等大学総数146大学、530人以上。短大は総数46大学、180人以上、専門学校は総数83校243人以上いたっています。くわしくはホームページで(主な指定校大学)をご覧ください。

Q2 推薦入試における 評定は、どの程度の 成績が必要ですか？

学校推薦に関しては、校内推薦委員会において、成績・出席状況・部活動・素行等を参考に決定します。また、成績・出席状況については次のような条件があります。

① 三年次前期までの全体の評定平均値が、四年制大学は3.2以上、短期大学は3.0以上であること。(た

だし、専門学校は受験校の基準に準じる)

② 欠席日数は各学年10日以内を原則とします。(ただし、三年次は前期まで、5日以内であること。)

③ 遅刻・早退はあわせて各学年30回以内を原則とします。(ただし、三年次は前期まで15回以内であること)

しかし、これらの条件を満たしていても大学側が決定する基準を超えていなければなりません。例えば、国公立大学では評定平均値が4.3以上の成績を要求してくる大学がありますし、多くの条件をあげてくる大学もあります。まずは充実した高校生活を送ることが最優先課題です。

Q3 大学推薦入試のシ ステムと入試時期 について教えてください。

推薦入試には指定校制と公募制があり、10月中旬から実施されます。指定校制とは私立大学側と高校側の

信頼で成り立っています。基準・人数制限があり、有名大学のこの制度には毎年競合することが少なくありません。内定者はほぼ100%合格します。公募制とは国公立の大学で実施されている制度です。校内基準・各大学の指定された基準に達していて、希望があれば受験できます。しかし指定校とは違い、倍率も高いので、必ず合格するとは限りません。受験の機会が増えるというくらいに思っている方がよいでしょう。

また、推薦試験では、書類審査・小論文・面接が3本柱であり、早めの対策が推薦攻略の決め手となります。日頃の学習活動の他に、行われなければならないので、しっかりとした計画を立てて、実践していく必要があります。

Q4 AO入試とはどの ような試験ですか。

AO入試を実施する大学は年々増加を続け二〇〇七年度入試では全四年制大学71校の6割を超えるまでになりました。募集人員はまだまだ少ないが着実に志願者が増えています。文部科学省の調査によると、この数年の競争倍率は国公立大が平均して4倍前後、私立大が2倍前後で推移しています。

AO入試の特徴、また従来の推薦入試との違いは、次のように要約できます。

① 学校長の推薦がなく、出願条件を満たせば誰でも応募できる「自己推薦制」「公募推薦制」の強い入試。

② 選考では面接や面談が重視され、時間や日数をかけてタツプリと、しかも綿密に行われる。

③ 模擬授業やグループ・ディスカッションといった独自の選抜が行われるなど、選抜方法に従来の推薦入試にはない創意工夫がなされている。

④ 受験生側だけでなく、大学側からの積極的な働きかけが行われる入試。また、「AO入試」には次のタイプがあります。

* 論文入試タイプ(選抜型)
* 予備面接タイプ(対話型)
* 自己推薦タイプ

Q5 専門学校を希望する 場合必要なこと は何ですか。

職場で即戦力になる人材を育てる学校が専門学校です。特定の職業や資格に直結した知識と技術を学ぶ学校が多いので、卒業と同時に職場に入って活躍できるくらいの技能を身につけることができます。そこで事前に準備することは2つで

す。自分自身がどのような職種に就きたいかを明確にすること、その専門学校をよく調べることです。言い換えれば、専門学校就職の構図を自分の中で描き、専門学校についての情報を収集し、分析することです。

Q6 就職についてのア ドバイスを聞かせ てください。

多種多様の業種からの求人数は500件以上あるので

すが、今年度の本校の就職希望者は6名でした。内定した生徒の状況をみていて感じられることは、どれだけ高校生活を充実したものにしていたかということ、学習活動・出席状況・課外活動等の高校生としてやるべきことを日常的に実践できたかということです。資格なども学校生活の中で取得できる英語検定や漢字検定を考えておけばよいでしょう。

進路講演会

二学年委員長
矢島 夫美也



講演する安田先生

七月二十一日(土)本校視聴覚室において、講師に安田一裕先生を迎え、親と子で考える進路」と題して盛大に講演会が開催されました。また、講演終了後各学年、進路別に分かれ懇談会が開催されました。

講演の中で、真剣に進路について考え、子供に対し、親は、一番の理解者であり応援者であって、一緒になって考え、子供自身が将来について考え、目標を決め、目的意識を持って学習に取り組む事が大事であり、決して親の期待を押し付けてはいけない事を再認識することができました。又、過保護についての話もあり、知らず知らずのうちに、子供に対して行っている行動も注意しなければな

らないと痛感させられ、非常に有意義な講演でした。大学受験という共通目標のもと、真剣に親子で話し合うことで、より良い親子関係を築いて行く事が大事だと再確認できた思いでありました。

進路は高校入学時点から考えて行くべき物であり、早い段階での目的意識を持った人こそより大きな力を発揮する事や、現在の進路事情についての情報収集等このような講演会に積極的に参加し、親子の会話の一つにし、良きアドバイザーになるための一つになる有意義な時間であるので、より多くの方に参加して頂ければと思います。

前橋育英

雄渾

同窓会
だより

「我に勝ち、 味方に勝ち、 敵に勝ち」



同窓会長 関根 映一
(第1期生・昭和40年度卒)

同窓会員の皆様、お元気でしょうか。日頃は前橋育英高校の発展のため物心ともに御尽力を賜り心から御礼申し上げます。母校にとっても、いよいよ本格的な少子高齢化社会を迎え、大変厳しい時代になっていっていると感じています。そういう中で伝統を守り、文武両道をめざし頑張っている姿を拝見すると、先生方、後輩、保護者の皆様には心より感謝を申し上げます。

さて、まだ時期が早いかもしれませんが、今年一年を振り返りますと社会的にも個人的にも大きな変革期を通過したな、と感じます。今世紀最大の地震、台風、地球温暖化、夏の異常気象等の災害をはじめ、子供達を取り囲む悲惨な事件、事故。

一方政界において群馬では統一地方選挙、知事選、参院選、さらに福

田康夫首相就任等がありました。

翻つてみるに急速に変化する時代には、自らの成長、革新の息吹が大事であると考えます。「我に勝ち、味方に勝ち、敵に勝ち」。これ武將の三勝といふ。楠正成が詠んだ歌だと聞いています。まず勝利する相手とは「自分自身」と決め、私たちは人生に意気込みをもって臨みたいものです。

親子二代同窓生

来春二回目の卒業式

根岸 美智代(第13期生)

亜由美(第41期生)

菜津美(第43期生)

長女が、高校の進学先として育英高校を選んだのをきっかけに、私は2回目の入学式を迎えることが出来ました。私の入学式は、現在の第一体育館でしたが、今では県民会館の大ホールでの入学式に驚いてしまいました。ロビーでは、お世話になった先生方が新入生を迎えており、「お世話になります。」と、挨拶させていたたくと返ってきた言葉が「須川、ここで何してる?」でした。新入生の母親として会場に来た私の緊張感も一瞬にしてほぐれ、高校時代に戻ったように感じました。

私の高校生活では、勉強と言え

テスト前に図書館で友達と勉強をした記憶がなく、毎日、朝から夕方まで部活動(吹奏楽)をして三年間が過ぎたように思います。今年の吹奏楽部の定期演奏会に出かけて行き、後輩達がステージで演奏しているのを見ると、コンクールでの緊張感と演奏が終わった後の充実感が思い出されました。

現在では、文化部、運動部ともそれぞれ盛んに活躍されていますが、当時は、体育コースが新設されるほどスポーツが盛んな時代で、文化部の活動の場がなかなかなかったため三年に一度の文化祭の間に小文化祭を企画して、文化部一丸となり実現に向け取り組んだことも思い出です。

姉の高校生活を見ていて次女も進学先に育英高校を選び、3回目の入学式を迎えることが出来ました。短期大学時代を過ごした校舎(現在の南校舎)での授業参観や三者面談は何か不思議な感じでした。放課後、娘は担任に進学相談、私は恩師に悩み相談です。

このように在校生だけではなく、卒業生のごも暖かく受け入れていただき親身になって考えていただけの先生方に見守られながら、長女は看護の道を目指して進学し、次女は



私の近況報告

卒業後を振り返って

群馬県立前橋西高等学校教頭 青柳 高夫 (第2期生)

美容の道を進路として選択しました。来春には、3回目の最後の卒業式を迎えることができます。親子二代に渡り思い出深い高校生活を過ごさせていた、いただきました。校長先生をはじめ学校関係の皆様、同級生、先輩、後輩の方々にあらためて感謝申し上げます。

作曲家の道を志し、東京の音楽大学への進学を目指しましたが、力不足のため夢が叶いませんでした。加えて家庭の経済状態の悪化もそれを許さず、一年間の浪人生活の末、地元の前橋大学教育学部音楽専攻に進学することとなりました。

大学四年の春、偉大な師との出会いが本格的に音楽の勉強に取り組みきっかけとなり、二年間休学状態となりました。

大学六年目(留年)の五月、父親の他界を機に、大学生活のピリオドを決め、翌年三月に卒業しました。昭和五十一年、高崎高校に非常勤講師として一年間お世話になったことが、教職生活の始まりとなりました。昭和五十三年に正式採用となり、以



青柳 高夫 (第2期生)

私流の恩返し

群馬県立前橋東高等学校教諭 関根 努 (第27期生)

母校を卒業して早くも16年が経ちました。私は、平成3年3月に本校を卒業し、地元の前橋大学を経て平成9年から県立高校の保健体育の教員として勤務しております。高校時代の3年間では、朝から晩まで所属するサッカー部のことばかりを考えて過ごしたことが懐かしく思い出されます。当時はまだ2度目の全国出場で、悲願の1勝を目指す程度でした。この3年間と大学サッカー生活の経験を活かし、現在では前橋東高校で監督としてサッカーの指導をしています。まだまだ母校の足元にも及ばないチームですが、選手を連れて練習試合として頻繁



関根 努 (第27期生)

退職に際し

同窓会副会長 吉田 幸一
「雄渾」編集委員

同窓会紙「雄渾」が合同紙に組み込まれてから十二年、同窓会新聞を含めると二十二年にわたり編集委員をしてきた。その間六十名もの同窓生と接触したが、仕事は異なっているも彼ら(彼女ら)に共通したものを感してきた。それは育英魂とでも言うべきもので、静かな物腰の中に、燃えるような精神を秘めていた。今や同窓生が一万九千人のほり、これから社会において真価が問われることになる。

一期生同窓会について

平成20年3月15日(土)・16日(日)に、一期生同窓会を伊香保温泉「福一」で行う予定です。ふるって参加して下さい。再会を楽しみにしております。



同窓会副会長 吉田 幸一
「雄渾」編集委員

後援会だより

創立50周年へ向け 教育環境整備を着実に進めよう!!



前田 勇

学校後援会会長

学校の樹々が紅く染まり冬仕度を急ぐかのようにあります。この時季となりますと、サッカー部の全国大会出場の可能性が気になり、後援会としても、募金体制の準備にとりかかります。

また、三年生は大学受験勉強の最終ラウンドの追い込みに入り、苦しい、きびしい日々を追われていることと思います。何事も高く、きびしいハード

平成十九年度 後援会総会報告

今年度の総会は七月十三日(金)ミヤマ会館で行われました。

総会では前田会長のあいさつに続き、中村義寛理事長より今年度入試の成果やスポーツ面での生徒の活躍に触れ小茂田校長から、インターハイでのバスケット、テ

ルを越えた達成感は大変素晴らしいものです。「文武両道を校是とする我が育英高校は、その実績を年々歳々積みあげ、地域社会から私学として、高い評価を受けておることは、ご同慶の至りであります。

開校以来45年の歴史と伝統に輝く本校は、創立50周年に向けて、教育環境を更に整備し、教育内容の充実を図り、在校生はもとより、入学を希望する生徒やそのご父兄のニーズに答えられる前橋育英高校とすべきであります。

そのために、学校後援会といえども物心両面から支援・協力を成すべきであると、皆様方にお願ひする次第であります。

二ス、陸上、自転車等の成績、野球部への期待が述べられました。議事は、事業・決算の報告と新年度計画が承認され、本部役員についても前田会長以下全員が再任されました。

また、会務を運営していく委員として二十名の運営委員が承認され、日常の業務執行に当たることとなっております。

世界的・全国的に活躍する育英生 今年も優秀「育英生」を顕賞

平成19年度全国高等学校総合体育大会 高飛込 第1位
平成19年度全国高等学校総合体育大会 飛板飛込 第1位
第83回日本選手権水泳競技大会 高飛込 第1位

水泳部 村上和基 君

今年度の後援会優秀「育英生」の顕彰者として水泳の村上和基君が決まり、去る九月十日(月)会議室にて顕彰式が行われ、賞状が授与されました。これは、後援会会則第四条の表彰規程によるもので全国的・国際的に優秀な成績を収めた育英生に与えられる賞です。



村上君は標記の通り好成績を収め、昨年に続いての授賞です。

先進私学視察 合同研修会 今年度は茨城「常総学院」

十二回目を数える先進私立高校視察研修会は、後援会・保護者会・同窓会・協力会・退職教職員・学校学園関係者の参加を得て、

秋色染まる十一月十六日(金)十七日(土)の両日、甲子園出場常連校でもある、茨城「常総学院」を訪問しました。

当日の参加者は42名、朝八時半に育英の大型バスで一路「常総学院」へ出発。

関越道から常磐道を通り、午前十時半に到着。早速、木内副理事長らの出迎えを受け学校説明、校内案内、生徒の学習状況や施

設を見せていただきました。

「常総学院」は昭和五十八年に学校法人を得て高等学校としてスタート。平成八年に中学校を併設。現在高校の生徒数は、六七七人です。中学校時代からコース別クラスをつくり目標に向かって学校全体が一致団結しているという感じを受けました。

進学面では、四年制大学合格100%を目指し、特に東大現役合格者三名を十名以上にと頑張っています。また、部活では野球部甲子園常連校として有名ですが、吹奏楽部も全国一位と文武両道

知恵袋 知っていますか!! 前橋育英高等学校後援会

前橋育英高校には、保護者会・同窓会の他に、学校を支援する組織として「後援会」があります。

この会の会員は、本校在校生の保護者および卒業生の保護者と、この会の趣旨に賛同して会費を納めた個人および団体(特別会員)となっております。

会の目的としては、高校の建学の精神に賛同し、卒業生の将来と私立高校の果たす役割の重大さを認識し、その使命達成と本校の発展に寄与するとしています。

主な事業は、「学校教育向上のための援助」「懇談会の開催や機関誌の発行」「会員相互の親睦と

を実践しています。感銘を受け、私たち参加者はバスに乗り込みました。一日目の宿泊地は五浦温泉、翌日は、大内宿、塔のへつりを巡り、視察研修の成果を語りつつ楽しく帰路につきました。



常総学院 正面玄関前

コラム 育英 伝統と校風

秋口に入って、某地方紙で各県立高校の創立何周年の特集記事を大々的に報じている。

群馬県の場合、古参の学校は男女別学が多く、男子校ではその建学の精神として「文武両道」「質実剛健」を謳う所が多い。そして、大

学進学率の高さや、政財界やスポーツ面で活躍している先輩や在校生の多さを誇っている。

古いから良い、長く続いているから良いという訳でもないが、今日のような栄枯盛衰、淘汰の激しい競争原理の中で生き残り、かつ高い評価を得ていくには、それなりの努力と実績を残すことが必要だろう。

育英高校も、あと五年で創立五十周年を迎える。近年スポーツ・学業面で目覚ましいものがある。「正直」「純潔」「無私」「愛」の建学の精神の下、二十一世紀への新たな歴史と伝統を打ち立てようとしている。(S)

ぐんま少年の船



前列左端が本人

3-D 齋藤 穂奈美 (伊三中)

高校生活最後の夏休み、私は群馬少年の船に参加しました。五日間というのは思ったよりも長く、普段の生活とはかけはなれた特別な時間のように感じました。

洋上学習では滅多に触れる事のできない知識をたくさん吸収し、洋上オリンピックやさよならパーティーでは各組ごとに一致団結をして協力・共有する喜びを体感しました。

小学校四年生～高校三年生という異学年集団の中で班長として、組長として、高校生リーダーとしてとても貴重な体験をすることができました。

文化部受賞一覧

高校芸術祭 中毛地区大会

● 優秀賞/創作脚本賞 2部門受賞

「じゃがいもカレー」という作品で、初めて県大会への出場を獲得しました。



県漫画展

● 群馬漫画連盟賞 受賞

初めての受賞で、部員一同の大きな励みとなりました。

県高校総合文化祭 囲碁専門部大会(関東大会予選)

- 団体戦 女子優勝/男子3位
- 個人戦 優勝 野倉 みゆき(2-6) 3位 品川 りえ(2-6) 4位 井上 直人(2-8)

女子団体と個人戦入賞者は関東大会に出場します。



※写真は県高校総合文化祭のものです。

演劇部
囲碁将棋部
Culture Club
総合芸術部
書道部

群馬教育書道展

- 群馬県高等学校校長会長賞 条幅の部 中嶋 舞(1-4)
- 県警本部長賞 条幅の部 桑原 美友(1-6)
- 県高等学校教育研究会会長賞 半紙の部 佐藤 有希(2-6)

群馬県書道展 ● 4名入選



サッカー部 2年連続全国大会出場

サッカー部監督 山田 耕介

十二月八日午後一時十分キックオフ、決勝は、前橋商業で、過去何回も戦ってきたライバルである、「闘う集団」「闘う個人」を決勝のポイントにあげ、「ハードワーク」「玉際の二点をキーワードにあげた。サッカーは走らないと何もしない。相手に走り勝つ、そして玉際に競り勝たないと勝負にならない。この二点を最後まであきらめず続けていこう。そうすれば必ず我々は勝つ。試合前のミーティングである。選手たちは最後まで集中してトライ続けた。試合内容は良くなかった。しかしこの試合に賭けている気持ちは伝わってきた。前橋商業も、ものすごい気迫で向かってきた。気持ち」と「気持ち」のぶつかり合いでどちらが勝つてもおかしくない試合であったが、勝利の女神は前橋育英に微笑んでくれた。次は全国大会相手は奈良育英、チャレンジヤーとしてがんばりますのでよろしくお願ひします。

吹奏楽部 第三十四回定期演奏会を終えて

吹奏楽部顧問 深澤 準一

私たちが吹奏楽部は、去る九月二十九日、前橋市民文化会館にて第三十四回定期演奏会を開催致しました。当日は八百名を越える方々にご来場頂き、盛大な演奏会となりました。

これまで応援・協力して下さった方々に改めて感謝申し上げます。今後とも皆様に喜んで頂ける音楽作りを目標に精進して参りますので、ご支援宜しくお願い致します。



硬式野球部



(左より)糸井球団代表、廣神、荒井

ドラフト指名をうけて

硬式野球部監督 荒井 直樹

過日十一月二十二日、プロ野球BCリーグ群馬ダイアモンドベガスに、本校の廣神聖哉を指名していただきました。私の教え子としては初のプロ野球選手で、非常に嬉しく思います。廣神には、どの道を選ぶかではなく、選んだ道でどう生きるか、ということを大切に日々の努力を怠らず、県民に愛されるプレーヤーになつてもらいたいと思います。支えてくれるたくさんの人達に対する感謝の気持ちを持って、全カプレーを期待します。

お知らせ

平成20年度版 同窓会名簿発刊のお願い

同窓会長・校長 名で会員の皆様には住所・氏名等の確認作業のご案内を同封いたしました。ご協力をお願いいたします。

受託会社 NTT東日本群馬(事務長)

合同紙広報委員

- 保護者会 小木曾典子
竹田 尚代
中越 裕子
山寄 幸代
小針千恵子
吉田 幸一
同窓会 城田 博巳
後援会 渡邊 真美
学園 佐藤泰一郎
学校 小須田 稔
高岡 直美
塚田 恵